

## 近畿支部報告

### 1. 播磨富士稜線 Pw

(報告者 11期 加藤 忠好)

- ・実施日 2017 11/21(火)
- ・コース JR 曾根駅＝鹿島神社～鷹ノ巣山～市境の稜線～涌居山東の展望台～佐土新～JR ひめじ別所駅
- ・参加者 (8名) <§ : 夫婦で参加>  
伊豫 § ⑧⑩、藤井⑩、畔山 K⑪、加藤 § ⑪、楠屋⑭、高村⑮
- ・報告

加古川から姫路にかけては低山ながらも岩山が多く、ちょっとしたアルペン気分で歩ける山が連なっている。

雪の降らないこの辺りでは、日陰のない暑い時期よりむしろ晩秋以降が山歩きのシーズンとなる。急峻な形をした岩山であるが、低山だけに見かけほどきつくはない。あまり汗をかかずにアルペンムードに浸れる山域なので、「播磨富士稜線登山」と仰々しい Pw 名を掲げて募集した。

JR 曾根駅から登山口までは歩いて 40 分程度の距離であるが、バスなら遠回りでも 10 分だ。どちらでも選べるように、集合地を登山口となる鹿島神社のチタン製大鳥居にしたのだが、全員がバスの乗客となった。こんな軟弱な集団だから、そろそろ近畿支部シルバーの会を名乗りたいのだが、バリバリ活動してくれる中堅人材が参加してくれないので、今でも OB 会の近畿支部の本隊に居座っている形となっている。



<手をつないだ 8 名と大鳥居>

大鳥居からいきなり岩山の登りだ。岩山だけに視界が効く。南に瀬戸内海が広がり、全山が見渡せる。どこでも休憩地となるのが、シルバー世代には嬉しい。



<どこでも展望地の稜線道>

15 分ほど登って、同じくらい休み休み登っていく。3 ピッチで高御位山の縦走路・鷹ノ巣山の肩に出た。これまでも存分に展望を楽しんで居るのに、ここでも展望を楽しむ。これからは西の縦走路にそびえる播磨富士の異名を持つ桶居山に向かうのだ。富士のような急峻な山容をしているが標高約 250m、こことほぼ同じなのだ。



<スープがうまい：岩場での昼食>

平日、しかも高御位山縦走路を外れると急に登山者が少なくなる。いわば貸切の山となる。少し歩き、岩の展望地で昼食。伊豫さんがいつもながらにスープを作ってくれた。陽射しがあっても、休憩すると寒くなるこの時期は、温かいスープが特にうまい。

この辺りは、低灌木なので視界が効くのに不思議と集落が見えない場所。遠くに六甲山系全山が見えるので、なおさら雄大な場所に居るかのような錯覚を覚えてしまう。錯覚であろうがなかろうが、実に心地良いのは事実である。適宜な岩登りと下りがあり、最後は樹林帯の溝に落ち込む。ここだけが土のような地質、断層による破碎帯なのだろうか。ちょっとじめじめしている。モウセンゴケが赤く紅葉していた。

溝から約 20m も登れば、今度は桶居山方面の岩山に連なる。低木の松がハイマツに見えてくるか

ら不思議だ。このハイマツ地帯でお茶会となった。



〈おいしそうな菓子〉

今日の菓子は、京は亀屋良永の「山づと」と栗の産地「恵那の栗きんとん」がメイン。深山の趣きがありながらも、広場状の稜線から瀬戸内海も望めるという別天地。最高のロケーションだね。女性達がああ菓子この菓子とはしゃいでいる。すっかり少女に戻っているみたいだ。12時から昼食およびお茶会で14時半になってしまった。その間歩いたのは約35分だけだよ。安全が確保されているなら、このような無駄こそが、真に山歩きを楽しくしてくれている。

されど、もう長居は無用と桶居山方へ向かう。小さなコブのアップダウンの道、1ピッチ約40分で東の展望台に着いた。ここが今回の下山の予定地だ。それでも、急峻な山容の桶居山に惹かれ登りたいという男性陣に、まあいいか・・・となった。見る見るうちに男達の姿が小さくなり急な道を登っていくのが見える。結構かかると思っていたのに、約30分で往復してきたのには驚いた。



〈東方からの播磨富士を望む〉

さすがに11月だ。15時を過ぎると急に気温がさがってきた。アルペン登山から、無事16時少し過ぎに下山。解散地であるひめじ別所駅近くの別所食堂で今日の無事帰還を祝った。何をしゃべっていたのか？ JR駅で解散したのは20時少し前だった。

## 2. 京都・御土居Pw

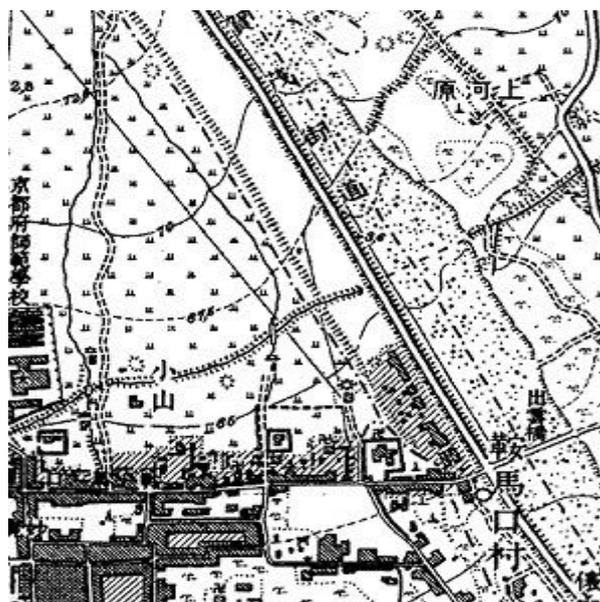
(報告者 11期 加藤 忠好)

- ・実施日 2017 12/15(金)
- ・コース 地下鉄鞍馬口駅～下鴨神社～糺ノ森＝加茂川中～交通公園～鷹峯～御土居公園～平野神社＝市五郎明神＝わら天神～(京料理で忘年会)
- ・参加者 (12名) <§:夫婦で参加>  
金岩⑤、伊豫§⑧⑩、高田⑩、畔山K⑪、加藤§⑪、赤地き⑭、楠屋⑭、宇野K⑮、金井⑮、三宅⑮
- ・報告

日本では城壁で囲まれた都市は珍しい。奈良盆地などには環濠集落という小規模なものもあっても、大きな都市というのは皆無に等しい。日本では都市の中に城壁で囲まれた城が普通なのだ。ところが、江戸末期まで京都市街が城壁で囲まれていたというのだから驚きである。洛中という所以である。

NHKブラタモリで、既にご存知の方もおられるでしょうが、実は、土塁を短期間で完成させたのが秀吉、それが御土居だ。

明治以降になって、土塁はほとんど壊されたが、明治期の地形図にでもかなり詳しく記載されている。下図で賀茂川の下を潜って流れているのが琵琶湖疏水である。御土居は疏水と直交するように土手の記号で記されている。またその基部が京都市と鞍馬口村の市村境となっているのが読み取れる。



〈明治期の地形図：鞍馬口附近〉

現在でも昔の状態に近い形で残っているのは京都市北部である。街の中にもその痕跡があちこちに残っている。今回の企画は、その痕跡を繋いで歩こうというものである。



<平野鳥居前町の御土居>

私は以前から御土居の存在を知っていたが、実際に目に触れ興味を持ったきっかけがある。歴女を自認する15期金井さんの奥さんの影響である。彼女は京都市内に点在する火葬塚なるものを求めて歩いているというまさに歴女だった。私は聞いたこともない用語だったので聞くと、天皇などの小さな陵墓だとのこと。平安期より以降は土葬でなく火葬にしたので火葬塚というらしい。

へえ、そんなものがあるのかいな・・・程度の意識で、上賀茂神社に向かう京都市バスに乗っていたら、それらしいのが目に入ってきた。急いでバスを降り確かめると、それは火葬塚でなく御土居、つまり秀吉が作らせた城壁の生き残りだったのである。

Pwの集合地を地下鉄鞍馬口駅とした。ここから西へ金閣寺に向かう道のごく金閣寺に近い部分を「金閣寺道」というらしいが、その多くを「鞍馬口道」というのが不思議でたまらなかった。その道も、この御土居を知ってからいっぺんに謎が解けた。御土居によって洛中、洛外が明確になったらしく、洛外に通ずる出入り口のうち鞍馬へ通ずる口を鞍馬口という。鞍馬口道はその洛中の延長部分に当たっていて、その道が、たまたま西に金閣寺に通じていただけのことである。

せっかくの京都なので歴史散歩だ。まず鞍馬口駅から北へ紫明通に出た。水量が乏しかった堀川を運河として使うために、水を補給するために開削されたあの琵琶湖疏水の跡が紫明通だ。京都の道は東西、南北とほぼ正確に付けられているが、水路は等高線に沿うのが常道。紫明通は東西南北外なのだ。紫明通に従って賀茂川の土手に向けゆ

るく登っていく。その土手こそが御土居なのだ。今では賀茂川に沿って家が立ち並ぶが、通常ならば土手の下に家があって良さそうなものである。ここでは御土居が巨大であったために土手の上に家を建てる事ができている。民家の間を御土居の痕跡に沿って鞍馬口まで南下し、西からの鞍馬口道に合流した。

ちょうど鞍馬口に当たる場所に和菓子屋がある。以前、御土居のことを聞いたら「そんなものがあったのですか」という返答。往々にして地元の人というのは昔のことに無頓着なところがあるものだ。

ここに架かる出雲路橋を渡ると下鴨神社である。出雲路の「路」は「地」と同じで、古代出雲族が住んでいた土地という意味らしい。地名は奥が深い。だからここは出雲路にある鞍馬口なのだ。



<下鴨名物、みたらし団子>

素晴らしい景観の出雲路橋を渡り、迷わず「みたらし茶屋」に立ち寄る。団子に笑みが出る。店は境内でないのが不思議との意見あり。下鴨神社では時間を食わないようにとさっと通過したつもりだったが、それでも糺の森や河合神社で時間を食っていた。

ん～昼食は、鴨川デルタあたりかな？ でも、下見の時にあるものを見たので、対岸まで渡ろうと思っていた。が、「科捜研の女」効果か、希望はデルタで昼食と洒落込むべし！！となった。しかし・・・恐怖が・・・



<出町橋と比叡山を背景に>

何ということでしょう。あつという間に食事をさらっていったのです。被害者は金岩・金井の両コンビ。犯人は背後からの鳶。トンビもさすがだ。「金」だけを狙ったと大笑した。鴨川デルタは「鳶に油揚げ」で有名どす、注意しやす！！との看板があったそう。

昼食はさっと切り上げ、バスで北上。賀茂川に沿って北上してきた御土居と鷹峯から東へ延びてきた御土居とがほぼ直角で繋がる場所がここ加茂川中附近だ。道路を挟んで両側に断片が残っている。城壁というと敵を防ぐという目的もあるようだが、荒廃した京都復興を計る上で境界を明確にする目的、また度重なる北部からの洪水を防止するという目的もあったようだ。



〈鷹峯の御土居と外堀〉

加茂川中から鷹峯に向けて歩く。住宅地でも地形的に高みを帯びているのがよくわかる地域だ。御土居がそのまま残っていた交通公園、土塁上の竹林とともに外側の堀までもが現存している玄塚下あたり、寺を抜け、墓を通り、崖をよじ登り御土居にこだわって歩いた。御土居餅で有名な光悦堂で鍵を借り、柵内の史跡・御土居の上に登った。堀からは相当な高さである。土塁上には桜の大木があり、花見の頃にまた来ようと思った。

鷹峰から南へ、御土居の外堀となる紙屋川に沿って現存する御土居残片や痕跡を求めて北野天神まで歩いた。最後に、祟りがあったので破壊を免れたという市五郎明神の御土居にも登った。もう薄暗くなってきたのでなおさら、その恐さが増した気がした。

せっかくだから「京料理」で打ち上げ。もちろん京都通の金井さんの幹事でおしくいただいた。京は奥深い。その奥に入り込んだような一日だった。

### 3. 河内飯盛山Pw

(報告者 10期 藤井 直樹)

- ・実施日 2018 1/27(土)
- ・コース JR 野崎駅 9時 50分 集合～野崎観(慈眼寺)～飯盛山直登～飯森城跡・楠正行像(小楠公)前で昼食～権現川～権現滝～むろいけ園地～蟹ヶ坂～御机神社～四条畷神社～JR 四条畷駅 17:20 白木屋にて有志打ち上げ
- ・参加者 (13名) <§: 夫婦で参加>  
金岩⑤、伊豫§⑧⑩、藤井⑩、高田⑩、畔山K⑩、加藤§⑪、赤地き⑭、楠屋⑭、宇野§⑮、三宅⑮
- ・報告

~~~~~  
♪ 野崎参りは屋形ぶうねで参ろう ♪  
~~~~~



〈大東市のマンホールは野崎参り〉

新年初Pwの幹事となり、候補地を野崎観音經由河内飯盛山(314m)とした時、この節が頭に浮かんで来た。

昭和10年に東海林太郎がヒットさせ、野崎参りを全国区にしたというこの古歌が、何故、頭の中にあるのか。胎教? 場末の飲み屋?



〈野崎観音にて〉

半世紀近く在関西の身としては迂闊にも野崎参りは千葉県あたりのことと漠然と思い込んでいた

ので、新発見にこれは行かねばと目的地は即決定。

落語の野崎参りにあるように、当時は大阪から屋形船で行く参拝者と土手に行く人達との間で悪口の言い合いをするのが楽しみであったようであり、13名が罵り合いながら道中に行くのもまた一興と。

1月末という寒い時期のPwにつき、帰路バス停で寒風の中を待つという行程は嬉しからず、駅～歩き～駅のコースを捜してみたら、河内飯盛山に当たったという次第。

待ち合わせの野崎駅、JR片町線は放出（ハナテン）なる難読駅があることは知っていたものの、50年間下車したことがない駅がほとんどというのも旅心を誘う。

集合時に皆さんに聞いてみてもこのあたりは白地図と言う人が多く、関西人と言っても阪急人、京阪人、東海道線人と細分されるのが実態のよう。

野崎観音（慈眼寺）： 行基さんが開基したらしく、野崎参りは5月1日から8日の無縁経法要のことで、駅前からの露天とか今でも非常に賑わう由。

お染久松塚、東海林太郎の歌の歌碑、芭蕉さんの句碑（読めず）、本堂軒下に吊るされた数百の張り子の犬（安産祈願）とか盛り沢山であり、荘厳さはないものの、十分来た甲斐はあった。

河内飯盛山： ここは大東市であり、梅田、大阪駅方向とか展望よし。飯森城跡小楠公像前は日差し暖かく、場所を選べば風もなく幸せな昼食。



〈飯盛山の楠木正行像〉

権現川からツララが現れ、道にも少し雪。今回偵察省略の為、そのまま行ってしまおうところであったが、いつもながら加藤さんが予習してくれていて、権現滝なる名スポットに寄ることが出来た。



〈氷柱の下がる権現の滝〉

府民の森・むろいけ園地で休憩。赤地さんが善哉、餅、火器、鍋、13人前を歩荷して来てくれており、思わぬ甘党小宴会に。

毎年1年平均年齢が上がって行く近畿ワングルにあつて、今日の装備を見ても赤地さんの気力・体力は現役下位並みを保っており、有難い限り。敷物に正座して碗を待つ人、餅をつつく人、顔の緩む人達とここもまた幸せな一時。



〈四條畷神社〉

下山して四條畷神社に寄る： 由緒ありげな立派な神社。

四條畷の戦いで高師直に討たれた楠正行公を祭った神社とのことで、境内に「桜井の別れ」の石像などあり、禰宜、巫女さん常駐の格のある神社と知る。

歴史好きなメンバーはしっかり境内を探索。歴史に弱い私も高師直は伊丹で待ち伏せされて討たれており、ちょっとした石碑があるのを自転車で見に行ったりしていたので、なるほどという感じはあった。

四條畷駅にたどり着き、家路を急ぐ人達と分かれ、安酒屋で有志打ち上げ。

今年も13名らくらくとやや健脚向けコースを踏破出来たとの余韻を胸に帰路に就く。

#### 4. 鷲峰山・再々Pw

(報告者 11期 加藤 忠好)

- ・実施日 2018 2/15 (木)
- ・コース JR京田辺駅=宇治田原～立川～信西塚～釈迦岳～鷲峰山頂～金胎寺～原山の茶畑～原山=JR加茂駅
- ・参加者 (13名) <§:夫婦で参加>  
金岩⑤、伊豫§⑧⑩、篠島⑧、藤井⑩、畔山K⑪、加藤§⑪、森川⑪、赤地け⑫、宇野§⑬、三宅⑮

#### ・報告

関西に住んでいて良かったと思うのは、歴史に触れる機会が多いことだ。どんな場所でも同じように時間がながれているはずなのに、どこを歩いても歴史を歩いている体感に気づく。これが関西なのだ。



<釈迦岳山頂にある天測点>

南山城の最高峰鷲峰山もそうである。多少我田引水的なところがありそうだが、南の大峰山とともに北の鷲峰山(ジュブザン)は、二大霊峰といわれる修験道の拠点だったという。しかも、白山を開山したという泰澄と所縁が深い(開基)寺というのでぐっと身近に感じてしまう。

昨年もここに登る山行きを企画したのだが、2回ともに悪天のため流れてしまった。それで再々の計画となったのだが、2日前まで怪しげな雲行き、冬だから無理をしないでおこうと思った矢先、前日になって降雨確率が20%以下となった。実施だ!!

集合はJR京田辺駅、駅で10期高田さんからの差し入れをいただいてバスで宇治田原へ。この辺りは完全に山里。本能寺の変で家康が堺から伊勢を経て三河に逃げ帰ったという同じ道を辿って鷲峰山に向かう。

途中、平治の乱で義朝に討たれた信西の塚もある。小さな塚であるが、信西の知行地であったこの土地の人が懇ろに葬ったという塚だ。そう思うと小

ぶりの塚であっても、歴史が身近に感じられる。不思議だ。



<平治の乱で討たれた信西の塚にて>

鷲峰山の門柱で、家康が辿った道と別れ、いよいよ登山だ。登山といってもほぼ稜線に沿ってつけられた林道を歩くことになる。以前は逆コースで歩いたためか、ほぼ軽い足どりでも下れたのに、その記憶よりも急な登りだった。冬なのに汗をかいてしまった。腹も減ったので、大休憩の昼食とした。結局、門柱よりトイレのある観音山休憩舎まで3ピッチ要した。さらに2ピッチで釈迦岳へ。

一等三角点と天測点に会うために、最高峰である鷲峰山を横目にしてここ釈迦岳まできたのだ。残念ながら琵琶湖も山並みも霞んでいた。

戻って山号が鷲峰山の金胎寺(こんたいじ)へ。金剛界・胎藏界の両方を持つスケールの大きな寺名であるらしい。山上にあるためか、今は随分さびれているが、それでも多宝塔、山頂の宝篋印塔は鎌倉時代のもので、ともに重文に指定されている。山頂から泰澄が空鉢を飛ばしたという伝承があり、空鉢(くはち)の峰とも呼ばれている。



<鷲峰山の最高峰・空鉢の峰山頂>

時刻は15時を回っている。日が徐々に長くなってきているといえ下山せねば。ここからは南へ和東・原山の方に下る。杉林を過ぎると驚きの風景、みんなが「おおー」と声を発していた。

突然、眼下に広大な茶畑が目飛び込んできたからである。京都の勝れた景観選定の原山の茶畑

だ。それにしても猛烈な急斜面。以前には登りで汗だくになったから、今回は逆コースにしたくらい急なのだ。

その時に、這いつくばって働く同年ぐらいの女性と1時間以上もしゃべり、以来知り合いになってしまったのがこの場所である。我が夫婦にとつては懐かしい。



〈等高線に沿って刈られた円形茶畑〉

茶畑の景観でも特に有名な円形茶畑を案内したが、写真撮影で無断立ち入る人が多いらしく、立入りご遠慮の看板が見られた。トイレに行きたい人もいたため、二手に分かれ公民館で落ち合うことにしたが、集落も急坂にあるため、やや心配した瞬間もあった。公民館前でコーヒタイム。例によって羊羹の大小に興じたのは言うまでもない。

鷲峰山南側の登山口に建つ門柱には、17時頃に到着した。そこがバス停でもある。バスに20分ほど揺られJR加茂駅には17時40分前に到着。桑名からわざわざ参加してくれた森川さんと別れた。といっても明石とはどちらが遠いのだろう……。



〈原山の茶畑にて〉

登山口として歩いてきた宇治田原町、下山の原山などの和束町、現在、宇治茶の大半は、ここで生産されていると聞く。例の知人と会ってみたいとも思ったが、バス時刻も迫っていたのでパスすることにした。

また、ゆっくりと訪れたい場所である。

## 5. 竜王山・摂津峡Pw

(報告者 15期 三宅 毅)

- ・実施日 2018 3/31 (土)
- ・コース JR 茨木駅＝忍頂寺バス停～竜王山～清水廃寺～車作～竜仙の滝～萩谷～総合公園～白滝～摂津峡桜広場 (解散)

(歩行距離 15 キロ)

(オプション； 花の里温泉美人の湯祥風苑)

- ・参加者 (14名) <§：夫婦で参加>  
金岩⑤、伊豫§⑧、篠島⑧、藤井⑩、畔山K⑪、加藤§⑪、森川⑪、楠屋⑭、宇野K⑮、上馬⑮、高村⑮、三宅⑮

### ・報告

3月末実施でしたので企画者の地元高槻「摂津峡公園桜広場」を最終地点に設定し、北摂の霊峰竜王山から東海自然歩道を歩く、滝あり溪谷ありのコースを計画しました。



〈竜王山への参道〉

桜の開花状況と天気心配でしたが、全国的に開花が早まり満開の桜と青空一杯の好天に恵まれまさに春うららのPwになりました。

阪急茨木駅発のバス乗車組とJR茨木駅で合流し、忍頂寺バス停に10時45分到着。

「忍頂寺」(現在は寿命院と称せられる高野山真言宗の寺院)には今回はお参りせず本Pwの最高地点「竜王山」に向けて11時出発。東海自然歩道を蛙岩(どの岩かはっきりわからない)岩刀山(いわたちやま)など見ながら30分程歩くと八大龍王大権現に到着。岩刀山は薬師岩とも呼ばれ、大きく割れた巨岩の割目から薬師如来が出現したと言われているらしい。龍王は池の中に住む雨の神と考えられており八大龍王を祀った祠がある。5分程登ると竜王山頂上(509m)に到着。

山頂広場には立派な展望台があり、京都宇治方

面から生駒山、金剛山、葛城山、大阪平野、神戸、六甲山まで一望出来た。

竜王山頂から急な階段を下り 30 分で昼食場所の「清水廃寺・経塚」に到着。



〈高山右近が廃寺とした清水寺跡にて〉

眼下には車作（くるまつくり）集落が広がり眺望も良い。満開の桜をめめながら昼食。暖かい日差しが気持ち良い。「清水寺」は鎌倉時代から室町時代に栄えたが、高山右近（キリシタン大名で有名）により焼かれた。その時僧徒が逃れて経文を埋めたという経塚碑が立っている。「高山右近も酷い事をしたもんだな」と誰かが言ってみんな同意。

13 時 30 分清水廃寺出発。満開の桜や大木のハクモクレン、レンギョウなどを見ながら茨木市「車作集落」を抜け竜仙峡へ向かう。

「車作」という地名は白鳳時代天智天皇の頃この村で産出する良質のケヤキを使って御所車を作り献上したのが由来らしい。広い斜面に階段状に多くの家が建っている風景は絵に似たくなる風景だ。



〈細いが美しい竜仙の滝〉

14 時 30 分「竜仙の滝」到着。

高さは 13m だが水量もそこそこあって岩肌を縫って流れ落ちる滝は樹木と苔むした岩に囲まれなかなか神秘的だ。

滝壺からはジグザグの急登 10 分。みなさん足取り軽やかに？登りました。ここから高槻市「萩谷集落」まではほぼ下りなのですが、途中竹藪の中少々の登りがあり皆さん意外にしんどかったかもしれません。

15 時 45 分萩谷集落到着。淀川の支流の上流沿いにある小さな集落である。桜咲く集落の中を抜けさらに東海自然歩道を高槻撰津峡に向かう。途中「萩谷総合公園」で休憩。ここも桜満開。親子連れの人達でにぎわっていた。

16 時萩谷総合公園出発。ここから溪谷に下り 30 分足らずで「白滝」到着。「白滝」は高さ 15m 幅 5 m とあまり大きくはないが周囲の木々にマッチした美しい滝だ。



〈白滝にて〉

滝から少し下ると大きく開けた撰津峡に出て溪谷沿いの歩道を歩く。「撰津峡」は淀川の支流「芥川」の上流に約 4 キロにわたって奇岩、断崖、滝などが続く景勝地で「大阪みどりの百選」などにも指定されている。

17 時本日の Pw 最終地点「撰津峡桜広場」に到着。3000 本のソメイヨシノが満開。ここで缶ビールなど飲みながらのんびり花見の予定だったが、眼下に見える「花の里温泉美人の湯」に早く入ってビールを飲みたい」と言う声が多数上がったので記念撮影の後解散となった。

「花の里温泉美人の湯」は pH 9.1 の重曹泉で、ヌルヌルしたお湯は肌に良さそうな気がする。屋上の広い露天風呂でゆっくり浸り生ビールで乾杯し終了。

温泉の外に出ると夜空に大きな月。ブルームー

ンでした。ブルームーンと満開の桜が同時に見られるのは非常に珍しいそうです。(藤井氏談) ちなみに次のは2020年10月らしいです。貴重な体験をしました。



〈摂津峡桜広場は、まさに桜花爛漫〉

金岩さんによると本日の歩数は3万歩、歩行距離20キロだったそうです。少し多い気もしますが、今回のコースは茨木市のハイキングガイドによれば「健脚コース」です。みなさんまだまだ健脚健在!! 満開の桜や花々、のどかな山里、滝や溪谷など巡り程よい疲れが気持ち良いPwでした。

## 6. 六甲・岩梯子Pw

(報告者 15期 宇野 潔)

- ・実施日 2018 4/12(木)
- ・コース 阪急芦屋川駅～鷹尾山～(岩梯子)～荒地山(549M)～横池～風吹岩～保久良神社～(桜守公園)～阪急岡本駅  
(イタリアンのオプションあり)
- ・参加者 (9名) <§:夫婦で参加>  
金岩⑤、加藤§⑪、畔山⑪、赤地け⑫、三宅⑬、高村⑬、宇野§⑮
- ・報告

春たけなわの4月12日。花(桜)はもう遅いかと思われた六甲山でしたが、思わぬ「コバノミツバツツジ」のトンネルに春を満喫したpwとなりました。



〈ツツジの道〉

集合場所は、六甲山頂への一番ポピュラーな「芦屋川駅」(標高32M)です。六甲山系は、最寄駅(JR、阪急、地下鉄等)からそのまま徒歩で登れる(アプローチの短い) 都会ではめずらしい山です。

途中までは、ポピュラーな六甲山頂登山ルートの高級住宅街を歩きます。メインルートで、たくさんの登山者が坂道を歩いてゆきます。しかし、我々は途中で、右に折れて城山から鷹尾山への稜線を目指します。ここからは、登山者の数はめっきり少なくなります。

このコースは、六甲山の中でも私が一番好きなコースです。平日は、ほとんど人に会いませんし緩やかな稜線歩きが楽しめます。そして、その後には「岩梯子」もあり、変化が有って面白いルートです。

稜線に出る途中から、コバノミツバツツジの群生が迎えてくれました。素晴らしい!の連続となりました。実は、私は春に来たことが無く、「桜は終わった」と全く花は期待していなかったのも、この群生には思わぬ感激の一言でした。



〈岩梯子上部〉

明るく楽しい稜線歩きが続きます。道に岩が現れ出し、少し急になってくると、本日の目玉の「岩梯子」が突然目の前に現れます。「えー! どうして登るの!」と云いながら、両手両足でほぼ垂直の岩を登ります。ただし、そんなに長く続きません。よほど足が短くなければ何とか登れます。最後は、やっとくぐれる、岩の隙間を通過して、完了となります。

通過したそこには、瀬戸内海までの素晴らしい展望が開けています。ここで、大きな岩の上で、絶景を眺めながらの昼食です。どういう訳か、こ

んなところに猫がやってきて、高村さんになついでいました。

今回の最高峰は、荒地山(549M)ですが、見晴らしは無く楽しくは有りません。

荒地山からは下って、高座の滝からのメインルートに合流します。元気な人は、これから六甲山頂を目指すのですが、われわれは、反対側(下山ルート)の横池(雄池、雌池)から風吹き岩(437M)を目指します。途中、六甲山で唯一飲める(知人ぞ知る)水場にも立ち寄りしました。



〈横池・雌池にて〉

雄池は、山の中なのを忘れるくらい大きなたたずまいで、落ち着いた風景を見せてくれます。大量のオタマジャクシにびっくり!春の息吹を感じました。

風吹き岩はメインルートにあり、多くの登山客が昼食をとるので、イノシシが良く出没するのですが(「イノシシ注意の看板」あり)、今回は我々に恐れをなしたのか?出没しませんでした。

この後は、風吹き岩から金鳥山(313M)をかすめて保久良神社、桜守公園経由でお洒落な阪急岡本駅(34M)まで歩きました。保久良神社は、古代文明「カタカムナ」の遺跡が有名で、梅林と桜の名所ですが、桜はやはりほとんど終わっていました。



〈保久良神社の葉桜〉

しかし、あの水上勉の小説「桜守」のモデルとなった笹部新太郎氏の屋敷跡である「桜守公園」では遅咲きの桜を見ることが出来ました。

阪急芦屋川駅(標高32M)~最高峰荒地山(549M)~阪急岡本駅(34m)と標高差約510mの春の楽しいPwでした。

最後は、「お洒落な街阪急岡本」の「 Pasta&ピッツァ 1580円食べ放題」でしっかり締めました。

## 7. 六甲・ハンカチノキPw

(報告者 11期 加藤 忠好)

- ・実施日 2018 5/1(水)
- ・コース 神鉄・北鈴蘭台駅=森林植物園~園内散策~東門~布引谷(二十渉)~五本松堰堤~布引雄滝~雌滝~新神戸駅
- ・参加者 (11名) <§:夫婦で参加>  
金岩⑤、伊豫§⑧⑩、藤井⑩、畔山K⑪、加藤T⑪、赤地け⑫、宇野K⑬、鈴木⑬、高村⑬、三宅⑬



〈ひらひらとゆれるハンカチノキの花〉

・報告  
木に咲く花の中でも気になる花がある。その一つが「ハンカチノキ」の花である。

もちろん外来種の木であるが、咲いている姿がまるで木からぶら下がったハンカチのようで面白い。遠くから見ると、マタタビの葉に似ているがれっきとした花である。

数年前の春、食いしん坊の4人が奈良・大宇陀の大願寺へ薬草料理を食べに行った。それが偶然に近畿支部でも石川県人だったから笑える。昔はお寺も大変だなあ・・・と思うほどの寺であったが、この薬草料理が評判を呼んだのか随分と立派になっていた。

上品、かつおいしくいただいたのは当然のことであるが、帰り際に植物の標本のようなものが額

に入っていた。住職に聞くと、「これはハンカチの木という非常に珍しい花でそれを押し花にしたもの・・・」とのこと。



〈満開のハンカチノキ：天津の森〉

話を続けるために、その木なら六甲山にあることを聞いたと答えると、「そんなことはありません。とても珍しい木で、そんじょそこらにはないはず。我が寺の庭に植えてありますが。」とちょっと自慢げだった。

家に帰って調べると、やはり六甲の森林植物園にあるということだった。花の時期に見にいくと、この木は大木。しかも花が見事に満艦飾にぶら下がっていた。あの住職に見せてやりたいと思ったほどだ。

5月は季節が良いのに山行きの提案がなかった。なので私が企画することになった。花を見に行くとなると、いつでもよいというものではない。実施日は5月初日とした。

集合は神戸電鉄北鈴蘭台駅。1時間1本のシャトルバスで森林公園へ。GW期間なので混むことを想定し、バス時刻より少し早めを集合時刻とした。昔なら歩いただろうに、バスも無料だから特に誰も否定はしない。



〈シャクナゲはちょうど満開だった〉

下見の時に咲いていた春の花は既に終わっていたが、シャクナゲ・ツツジが満開だった。むしろ

多すぎてウンザリするほどだ。

もちろんお目当てのハンカチノキもちょうど見頃。ヒラヒラと花を揺らせていた。しかし、シャクナゲ園のは大木なので花がよく見えない。よって、花を見るべく天津の森へ歩いた。この木は未だ低木なので花を間近に見ることができた。落ちていた花は押し花とすべく新聞紙に挟んだ。

花を見ているとあっという間に12時近くになっていた。陽射しも強いので、さらにユーカリが一杯あるブリスベーンの森へ。その館で昼飯となった。

森林植物園は、戦前の紀元2600年記念事業としてS15年に神戸市が起工したもので、当時としては森林植物園という着想は非常に珍しいものであった。それは明治時代までは表六甲がはげ山で、そのため度々神戸の街が大水害に見舞われていたことと関係していると思われる。



〈無料のブリスベーンの館で昼食〉

この植物園には、日本各地の木はもちろんのこと、外国の木も植わっている。神戸市の姉妹都市であるシアトル、天津、ブリスベーン、リガについては、その国原産の木を植え建物を添えた森として楽しめるようになっている。基本的には自然公園なので、ここだけでも十分に楽しむことができる場所だ。

それでも山行きとしては、やや不完全燃焼との声もありそうなので、これにトゥエンティクロスというバタ臭い名の登山道を神戸市街まで歩くことにした。昔は名の通り20回程度の渡渉があったらしいが、今では飛び石や橋が架けられ靴を濡らさない快適なよく整備された道となっている。

それでも六甲山は神戸市街から眺めると屏風のようにそそり立っている山だから、一旦雨が降ると鉄砲水となる。そのため堰堤も多く流路が変わることもたびたびである。

下見の時も、従来の飛び石が隠れるほどの水があり、迂回路がつけられていた。



〈靴を濡らさずに渡れる飛び石〉

森林植物園から谷へ抜ける山道がいわゆる徳川道。大名行列と居留地の外人が出くわさないようにと幕末に突貫工事で作られたいわば国道である。そのようなことを思い浮かべて歩く。また神戸ウォータの水源の谷筋だから、見た目には水はきれいだ。

小橋や飛び石で布引の谷を左に右に遊んだ。途中、堰堤の堆砂でできたプチ上高地の雰囲気のある河原もある。誰もがそう思うのか、ここに架かっている怪しげな木橋には河童橋の看板がかかっている。笑ってしまう。谷沿いの歩きは変化があって本当に楽しい。

布引雌滝を過ぎればすぐに新神戸駅だ。一応解散としたが、近くにあった神戸らしい洒落た喫茶店に入り、ビールで打ち上げ。この店のビールを全部飲み干したが、それでもコーヒを飲んだ人よりか安かった。それほど量の量しか置いてなかったからだ。最後の最後まで笑える山行きだったけど、初参加の15期鈴木さんは楽しめたかな。



〈布引・雌滝にて〉

## 8. 生駒の瀑布と紫陽花を愛でるPw

(報告者 12期 赤地 賢一)

- ・実施日 2018 6/11 (月)
- ・コース 近鉄額田駅～長尾の滝～撰河原道～ぬかた園地・あじさい園～興法寺～辻子谷～近鉄石切駅～石切神社～新石切駅
- ・参加者 (8名) 〈§:夫婦で参加〉  
金岩⑤、伊豫K⑧、藤井⑩、加藤§⑪、赤地§⑫⑬、三宅⑮
- ・報告

題名の生駒の瀑布とは近鉄額田駅からほぼワンピッチで着く。古刹・天龍院境内にある滝で、雄滝と雌滝併せて生駒山系随一の滝と称されている「長尾の滝」です。



〈長尾の滝にて〉

紫陽花は生駒山中腹の斜面に1500mに渡るつづら折りの遊歩道の両脇に30数品種、約2万5千株が色とりどりに、しっとりと咲き競っている関西でも屈指の「額田紫陽花園」です。

今回は奈良県側に行かず大阪側の辻子谷(ずしだに)を下り、近鉄石切駅の前にあるレストランで打ち上げをして解散としていましたが、打ち上げの折り、加藤さんが「石切神社」に行きたいと言うので「石切さん」を参拝して新石切駅で解散となりました。

それでは例によって、参加した皆さんからのメールを紹介してPw報告とさせていただきます。

〈加藤⑪〉:お世話になりました。ありがとうございました。楽しい一日でした。それにしても、なんということだったのでしょ。2つの前線に挟まれ、しかも南から台風が煽られていたというのに、ほとんど雨に会わなかったという不思議。まさに三宅効果の素晴らしさでしょうか～?。久しぶりにワングルの仲間と会い楽しいひとときが過

ごせました。確かに沿道のあふれんばかりの紫陽花は見事でした。生駒の西側の急峻な階段道、水車、朝鮮寺はまさに東大阪を感じました。自分の能力の限界を存じている加藤夫婦は、奈良から入り、生駒山頂の一等三角点を撫でてから参加して良かったです。実は、みなさんが到着する前に、売店が開店前なのに、頼み込んでアジサイ園名物のアイスクリームをチャッカリと食べてたのです。》



〈ぬかだ園地・あじさい園〉

《金岩⑤：先日の生駒・長尾滝～額田園地～興法寺～石切神社ハイキングでは天気予報を見事に読み切っていただき、お陰様で予定コースを完歩して終えることが出来ました。生駒山系も回を重ねるに従って、益々奥の深い山系であることを認識するようになってきました。アジサイも意外に多くの種類が迎えてくれていて、結構楽しむことができましたね。下見、当日の案内、具沢山の味噌汁他とK-K赤地さんには本当にお世話になりました。雨雲進路を適宜操作して頂いた(?) 晴男Mさんもお疲れになったことでしょうね。帰途の電車を降りたら本降りの雨、Mさんも息切れになったのでしょね。本当にお疲れさまでした。》



〈おやつタイム：大中小に興じる〉

《伊豫⑧：滝、お寺、紫陽花。なによりも、楽しく仲間と語らいながら歩けることに感謝感謝です。2週間ぶりに担いたら、たいした重さでもないのに、今朝少し肩がはっています。最後に、美味しい石切餃子まで。雨を覚悟していたのですが、三宅さんの法力?で遠く淡路島、明石海峡まで望める天気。ありがとうございました。》

《藤井⑩：昨日は、ほんとにいい流れでしたね。台風もくるとなれば、これはもう無理だと思っていたところが、行動中はほぼ傘もささずにすみまししたし、打ち上げのあの店も抜群でした。梅田で三宅さんと別れて伊丹に着いたら本降り。おかげで靴の泥もきれになりました。生駒の道中で智美さんが三宅さんの1m内を同行しようと言っていたのがよく理解出来ました。紫陽花ロードを鶯、相思鳥の囀りを聴きながらのんびり歩けたのも出て来た甲斐がありました。》



〈興法寺山門と紅葉〉

《三宅⑬：昨日は楽しい一日ありがとうございました。家に着く頃にはかなりの雨でした。晴れ男のジンクスがかろうじて守れてほっとしています。額田園地のアジサイ満開までもう少しでしたがまだ若々しくて却って綺麗でしたね(笑)。レストランの石切餃子もお好み焼きも美味しかったです。関西には何処にも良い店がありますね。赤地さん夫妻には細かな準備をしていただきありがとうございました。》

《再度、加藤⑪》生駒の西側は、断層によって作られた急崖。軟弱な加藤夫婦は、生駒ケーブルに乗って山上から下る。赤地夫妻を筆頭に頑強な方々は、額田駅のから沢沿いにぬかだ園地の紫陽花園に向かいました。園地では、早目に咲く紫陽花がわんさかとありました。その上に、ヤマボウシがあちこちに咲いていました。帰りは別の急崖

の谷道をくだり、一旦近鉄石切駅に出て、喫茶店で反省会。さらに複合扇状地の坂を下り石切神社まで歩きました。雨も覚悟の予報でしたが、幸いほぼ傘不要の天気。途中で日差しが射すときもあったくらいです。久しぶりにみなさんと会って興奮したのか、家内と夜遅くまでしゃべりました。夫婦二人で参加したので、お互い重くなったふくらはぎのリンパマッサージをしました。朝起きてもさほど足は重くありません。赤地夫妻には、下見・準備などお世話になりました。都合の良い?ときに聞こえない振りをする夫、それを許さない妻。その掛け合いが漫才を見るようで、それもまた楽しめました。伊豫さんにはたっぷりの白湯を持ってきていただき、水分補給に助かりました。我が夫婦の白湯は全く使われなかったので、重量トレーニングに役立ちました。といっても500g程度ですが。思わず行けた石切神社、あんなに低地にあるとは思わなかったですね。あの高地の駅、途中の門前町、低地の神社の関係がいまだに不思議です。



〈辻子谷の水車〉

・・・ということで梅雨と台風のぎりぎりの合間を縫って「滝と紫陽花を愛でる+石切さん参拝のPW」は無事お開きとなりました。

私・赤地と連れの喜久子は生駒に住みついて、もう26年になります。それで近畿支部のPWのお世話をするときには、どうしても生駒山系になります。今回でかれこれ4,5回は皆さんと一緒しているのではないのでしょうか。奈良の都と浪速を結ぶ生駒山は万葉集にも謡われた歴史を刻んだ山系です。KUWVの皆様が奈良に来て生駒山に登られる際は、私とキッコに案内をお申し付けください。

## 9. 2018 サンマPinピラデスト今津

(報告者 15 期 間所 新一)

- ・実施日 2018 10/15(月)~16(火)
- ・場 所 ピラデスト今津 (近江今津)
- ・参加者 (16名) <§ : 夫婦で参加>  
金岩⑤、伊豫§⑧⑩、高水間⑧、篠島⑧、畔山K⑩、加藤§⑩、森川⑩、高村⑩、宇野K⑩、金井⑩、三宅⑩、間所§⑩、川端⑩
- ・報告

かれこれ十数年続いている近畿OB会の秋の一大イベントである。一昨年から琵琶湖北西部の標高550mの山頂付近にある家族旅行村ピラデスト今津を会場としている。

昨年は、実施直前にピラデスト今津への道路が台風による土砂崩れで通行不能となり、残念ながら中止となってしまった。そんな経緯もあり、今回は満を持しての開催となった。

10月15日11:30近江今津駅に集合、送迎バスで会場に向かう。買い出し部隊他数名は車で直接会場へ。今回東海支部から16期の川端さんが初参加してくれ、12時頃には参加者16名全員が集合できた。

入村手続き後BBQ会場に移動。幹事三宅さんの挨拶の後、BBQ会場設営、BBQ材料調理、夕食準備の3班に分かれ準備開始。

てきぱきとした働きはさすがワングルOB。BBQは食べることも楽しいが、実はみんなでワイワイやりながらの準備作業も楽しみの一つだ。



〈BBQでの野菜のホイル焼き準備中〉

BBQの主役は、もちろん今年豊漁のサンマ。そして地元滋賀の近江牛。加えて野菜たっぷりのホイル焼き、豚汁、コシヒカリ新米の五目おにぎりなど。冷えたビールに加えて差し入れの日本酒、

焼酎、ワイン等が加わり、三つのBBQ炉で楽しい声弾んでいた。一方で、食い意地・飲み意地が逸るものの、実際には思ったほど食べられず残念との声も。

4時過ぎ、BBQ終了。この後もBBQ後始末、夕食準備、お茶会準備、映写会準備班に分かれ、てきぱきと作業が進んだ。

その後、長い階段をふうふう言いながら登って尾根の上にあるお風呂へ。完全貸切状態のお風呂ですっきり。

お酒も抜けたところで、夕方6時からロッジに移動して、恒例のお茶会開始。森川さん、高村さんの指導の下、抹茶と差し入れのお菓子でほっこりとしたひと時を過ごした。



〈大茶会 一服どうぞ!〉

夜はまだまだ続く・・・場所を変えて大映写会を開催。前半は、畔山さんが近畿OB会の一年間の活動を約30分のDVDに纏めてくれた大作を皆で鑑賞。各シーンにマッチした素敵な音楽入りだ。一年前の山行でも何とか思い出せる。まだ大丈夫と安堵する。

夜も8時を過ぎ、小腹がすいてきたので、五目おにぎりとお汁の夜食タイムへ。

大映写会後半は、篠島さんが長年取り組んできた黄葉のシルクロード(仏教伝来の道)ツアーの報告、続いて宇野さんにより紅葉真っ盛りの白山登山の報告が行われた。

映写会部屋の隣では、差し入れの高級ワイン、焼酎等で宴会が始まっていた。大いに盛り上がったのだが、残念ながらいつものごとく何を話していたかは記憶にない。

10月16日(2日目)6時頃からぼちぼちと起床。朝方雨が落ちたようだが、徐々に青空が広がり良

い天気になりそうだ。

7時、朝食。昨日から仕込んであるカレーにパン、おにぎり、野菜サラダ、牛乳、ジュース等から各自好きなものを皿に取って、おいしーい!



〈朝食：いただきまーす!〉

今日は、青空の下、山頂の広場でレクリエーションの予定だ。みんなでテキパキと後片付けをした後、ロッジ前で集合。

レクリエーション用のフリスビーを投げ合いながら遊んでいる途中で、金岩さんが切り株に引っかかり芝の斜面を後ろに1回転。みんなびっくりしたが、さすが普段から鍛えている金岩さん、ぴつたりと着地を決めた。

眼下に琵琶湖を望める山頂の広場へ移動。ここには体育館、グランドゴルフ、芝生広場等が揃っていて、遠くには竹生島が浮かんでいる。

いよいよフリスビー世界選手権近畿大会?の開催だ。約5m先の直径1mの輪にフリスビーを通すという一見簡単そうな競技だが、やってみると意外に難しい。



〈フリスビー大会での1投〉

まずは一人3投ずつ投げ、上位8人の決勝進出者を決める。思ったようにいかず、珍プレー続出でみんな大笑い。隣のグランドゴルフのグループもいったい何ごとかとこちらを見ていた。



〈琵琶湖を望む山頂広場で〉

トーナメント方式の決勝の結果は、1位金岩さん、2位金井さん、3位川端さん、4位加藤智美さんとなり、高級ワイン、コシヒカリ新米（福井産・近江産）、隠岐の羊羹の景品をゲットし、皆さん笑顔が溢れていた。

楽しい時間があっという間に過ぎる。11時になり、三宅さんの挨拶で解散。送迎バス、自家用車で各自帰宅の途についた。2日間のサンマパーティー、皆様お疲れさまでした。



〈ファミリーコテージに遊ぶ：ビラデスト今津〉

**2017 サンマP以降の近畿支部の活動** (すべて実施できました)

実施日	企画名	場所	企画・幹事
2017 11/21 (火)	播磨富士稜線P w	播磨アルプス	11期 加藤
12/15 (金)	京都・御土居P w	京都市中	11期 加藤
2018 1/27 (土)	河内飯盛山P w	生駒山系	10期 藤井
2/15 (木)	鷲峰山再々P w	南山城山系	11期 加藤
3/31 (土)	竜王山・摂津峡P w	北摂津山系	15期 三宅
4/12 (木)	六甲・岩梯子P w	六甲山系	15期 宇野
5/ 1 (水)	六甲・ハンカチノキP w	六甲山系	11期 加藤
6/11 (月)	生駒の瀑布と紫陽花P w	生駒山系	12期 赤地
10/15～16 (月、火)	2018 サンマP in 今津	野坂山地	15期 三宅、間所